ランチョンセミナー 1　第二会場　会議室 1　12:45~13:30

座長　医療法人財団慈生会 野村病院内科・常勤顧問 / 東京慈恵会医科大学 名誉教授
宇都宮一典 先生

糖尿病内科の観点からみた MASLD/MASH とエビデンスに基づいた薬物治療アプローチ

演者　旭川医科大学 内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野 教授
野本　博司 先生

共催：ノボノルディスクファーマ株式会社

ランチョンセミナー 2　第三会場　会議室 2　12:45~13:30

座長　福島県立医科大学 糖尿病内分泌代謝内科学講座 教授
島袋　充生 先生

腎臓を念頭においた糖尿病診療の最終目標達成 ～ SGLT2 阻害薬の役割を中心に～

演者：自治医科大学附属さいたま医療センター 内分泌代謝科 教授
原　　一雄 先生

共催：アストラゼネカ株式会社

ランチョンセミナー３　第四会場　会議室３　12:45〜13:30

座長　秋田大学大学院 医学系研究科 代謝・内分泌内科学講座 教授
脇　　裕典 先生

患者さんと一緒に始める新時代の糖尿病治療

演者　愛媛大学 総合健康センター 教授
古川　慎哉 先生

共催：日本イーライリリー株式会社

シンポジウム　第一会場　展示室 1-B　16:00〜17:30

「糖尿病医療者・研究者のダイバーシティを promote する委員会」企画
メディカルスタッフ・若手研究者研修会

司会　秋田赤十字病院 第二代謝内科 部長
菅沼　由美 先生
山形大学大学院医学系研究科 臨床看護学分野 教授
諏佐　真治 先生

第１部　講演（60 分）

座長　東北医科薬科大学 医学部 糖尿病代謝・内分泌内科 教授
澤田正二郎 先生

メディカルスタッフ・若手研究者のための統計学の考え方 〜論文から読み解く医療統計〜

演者　株式会社データシード 代表取締役　東北大学大学院医学研究科 非常勤講師

吉田　寛輝 先生

「データにどのような解析をすればよいかわからない」という悩みの背景には、有意差（$p<0.05$）を得ること自体が目的化している状況があります。統計解析は研究目的を達成するための手段にすぎず、リサーチクエスチョンとPICO（PECO）を明確にすれば、アウトカムの種類に応じて解析手法はおのずと定まります。本講演では、まずこの考え方を論文の構成（IMRAD）と対応づけて整理します。次に、実際の臨床試験論文を題材に、研究目的・方法・結果を読み解く手順をお示しします。さらに、P値と検定統計量が何を表す指標なのか、サンプルサイズによってP値がどう変わるのかを確認し、「有意差がない」ことが「差がない」を意味しない理由を解説します。あわせて、ASA声明を踏まえ、検証的研究と探索的研究とではP値の性質が異なること、有意差が得られなかった際に論文へどう記載すべきか（推定値と信頼区間の併記、多重性調整の有無の明記など）を、実際の論文表現を引用しながらご紹介します。日々の論文読解とご自身の研究にそのまま活かせる視点を持ち帰っていただければ幸いです。

第２部　パネルディスカッション（30分）

座長　せいの内科クリニック

清野　弘明 先生

東北地区における糖尿病領域の研究活性化に向けて

パネリスト

秋田大学医学部附属病院 看護部
小林　真央 先生

岩手医科大学附属病院 薬剤部
朝賀　純一 先生

弘前大学附属病院 栄養管理部
三上　恵理 先生

会津中央病院 看護部
西郷　和枝 先生

東北医科薬科大学病院 栄養管理部
文屋　展子 先生

鶴岡市立荘内病院 診療部薬局
鎌田　敬志 先生